

# 衆議院外務委員会ニュース

平成 22.3.26 第 174 回国会第 8 号

3 月 26 日（金）第 8 回の委員会が開かれました。

- 1 刑事に関する共助に関する日本国とロシア連邦との間の条約の締結について承認を求めるの件（条約第 1 号）  
刑事に関する共助に関する日本国と欧州連合との間の協定の締結について承認を求めるの件（条約第 2 号）  
刑を言い渡された者の移送及び刑の執行における協力に関する日本国とタイ王国との間の条約の締結について承認を求めるの件（条約第 3 号）
- ・岡田外務大臣、中井国務大臣（国家公安委員会委員長）、武正外務副大臣、中村法務大臣政務官及び佐々木農林水産大臣政務官に対し質疑を行い、質疑を終局しました。

（質疑者及び主な質疑内容）

## 平 沢 勝 栄君（自民）

- ・「日・露刑事共助条約」に関し、双罰性の欠如した事件に関する刑事共助請求がなされた場合、法務大臣はどのような判断基準でその諾否を決定するのか。
- ・「日・EU 刑事共助協定」では、原則として、死刑を科し得る犯罪に関する刑事共助は、拒否できることとなっているが、例外として実施できるのはどのような場合か。
- ・「刑を言い渡された者の移送に関する条約」（CE 条約）に基づく送出国につき、移送後の受入国における刑期の短縮などの有無について我が国は追跡調査をしているのか。

## 小野寺 五 典君（自民）

- ・「日・EU 刑事共助協定」で、死刑を科し得る犯罪に関する共助について、我が国が EU 加盟国に事実上請求できない規定になっているのは不公平ではないか。
- ・千葉法務大臣は、「死刑制度の廃止は好ましい」との考えを表明しているが、法務省は死刑制度の廃止について検討しているのか。
- ・ワシントン条約締結国会議で大西洋産クロマグロの禁輸を決定しようとした大西洋諸国に対抗して、我が国は当該諸国からのクロマグロの輸入を禁止すべきではないのか。

## 新 藤 義 孝君（自民）

- ・国際礼儀に基づき刑事共助が実施できる中で、刑事共助条約を締結して実施する刑事共助はどのような利点があるのか。
- ・中国、ブラジルなど我が国で服役する受刑者の多い国との間で受刑者移送条約の締結について優先的に協議していく必要があるのではないか。

- ・韓国が竹島のヘリポート改修や同島近海での海洋科学基地建設などで同島の支配を強化しようとしていることに対し、外務大臣は承知しているか、韓国政府に抗議するのか。

## 赤 松 正 雄君（公明）

- ・刑事共助の拒否事由に、死刑を科し得る犯罪に関する刑事共助が含まれた「日・EU 刑事共助協定」の締結に対し、国家公安委員会で反対があったとされるが、締結すると公安委員長等の政治判断について公安委員は納得しているのか。
- ・2003年に CE 条約が我が国について発効した後、実際の受刑者の移送を行うに当たり、関連事務処理を効率的に進めることについて特段の工夫などはしているのか。
- ・我が国が「国際的な子の奪取の民事面に関する条約」を締結することについて、政府における検討状況はどうなっているのか。

## 笠 井 亮君（共産）

- ・「日・EU 刑事共助協定」に基づき、EU 加盟国が我が国からの死刑を科し得る犯罪に関する共助の請求を拒否した場合、我が国はどのように対応するのか。
- ・在日米軍人受刑者への特別待遇の実態について外務省の見解を伺いたい。
- ・在日米軍人受刑者への「補充食料」の支給を廃止する方向で米国と協議すべきではないのか。

## 萩 原 仁君（民主）

- ・我が国とロシアとの間で、これまで実施された刑事共助の実績と実施された刑事共助の具体例を伺いたい。
- ・「日・露刑事共助条約」締結の意義とこれを早期に締結す

る必要性は何か。

- ・ 刑事共助条約で刑事共助の拒否事由となっている「政治犯罪」の定義と具体例を伺いたい。

## 中 野 譲君（民主）

- ・ C E条約と「日・タイ受刑者移送条約」との相違点は何か。

- ・ C E条約が我が国について発効した後の、C E条約加盟国出身受刑者とC E条約加盟国で服役する日本人受刑者の総数を伺いたい。
- ・ 海外で服役する日本人受刑者へ我が国在外公館から受刑者移送条約の内容を周知徹底する必要があるのではないか。

### 2 参考人出頭要求に関する件

- ・ 国際情勢に関する件（いわゆる「密約」問題）について、参考人から意見を聴取することに協議決定しました。